

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	家庭	東書	新しい家庭5・6
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「A家族・家庭生活」については、第5学年において自分にできる仕事を見つけたり、家族や親しい人々との団らんを持つ計画を立てたりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、地域の人々と心のつながりを深めるために工夫できることを考えたりする活動を通して、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くことができるようになってきている。 ○ 「B衣食住の生活」については、第5学年において「青菜のおひたし・ゆでいも」や「ご飯とみそ汁」を作ったり、「マイ・ミニバッグ」や「エプロン」を製作したりする活動や、第6学年において家族が喜ぶ一食分の献立を考えたり、「トートバッグ」を製作したりする活動を通して、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付けるとともに、それらの課題を解決する力を養うことができるようになってきている。 ○ 「C消費生活・環境」については、第5学年において目的に合った選び方や買い方を考えたり、環境や資源に配慮した生活を工夫したりする活動や、第6学年において目的や品質を考えた適切な買い方を考える活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付けるとともにそれらの課題を解決する力を養うことができるようになってきている。 ○ 「家族・家庭生活の課題と実践」については、家族のために小物入れを作ったり、年末そうじの計画を立てたりするなど、学んできたことを生かすための具体的な活動例が取り上げられ、日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「ひと針に心をこめて」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、手ぬいで学習したことを生かして生活をよりよくする様々な方法を考え実践したり、自分の考えを根拠や理由を明確にして分かりやすく説明・発表したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。 		
内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、児童が達成感や実践する喜びを味わうことができるよう学習内容を26の大題材(45の小題材)で構成し、「自分にできそうな家庭の仕事を見つけよう」や「手ぬいのよさを生活に生かそう」などの基礎的な学習をした後に、「1食分の献立を立てて、調理しよう」や「計画を立てて、工夫して作ろう」など基礎的・基本的な知識及び技能を応用的な教材で活用するなど、2年間を通して、系統的・発展的に学習することができるようになってきている。 また、北海道にかかわりにある内容については、「いつも確かめよう」に、月別気温と気温を示す都市のひとつとして札幌市のグラフと、地域の料理のひとつとして北海道・石狩なべの写真が取り上げられている。 ○ 内容の分量については、「A家族・家庭生活」は29ページ、「B衣食住の生活」は79ページ、「C消費生活・環境」は8ページ、「A家族・家庭生活及びB衣食住の生活」は5ページ、「B衣食住の生活及びC消費生活・環境」は9ページ、「その他」は16ページあり、総ページ数は145ページで、前回より約12%増となっている。(判型はA4判) 		
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「環境」「日本の伝統」「日々の備え」などのマークや「資料」「プロに聞く」などのコラム欄を掲載することによって興味・関心をもたせたり、ワークシートを掲載し学習活動を促したりするなど、意欲的に学習できるように工夫されている。 ○ 「いつも確かめよう」として写真や挿絵でまとめて掲載し、必要に応じて調べさせたり、「生活を変えるチャンス！」を示すことで、児童の生活の中から課題を見付けられるよう促し、家庭学習へとつなげたりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○ ユニバーサルデザインフォントを使用したり、大題材ごとに「学習の流れ」を掲載したりするなど、見やすさや使いやすさに配慮するとともに、見通しをもって学習できるように工夫されている。 		
そ の 他			

調査研究結果

観 点	種目	発行者	教科書名
	家庭	開隆堂	わたしたちの家庭科5・6
取 扱 内 容	<p>○ 「A家族・家庭生活」については、第5学年において自分にできる仕事を見つけたり、家族の一員として仕事の仕方を考えたりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、地域の人々との関わりを見つめ地域の一員としてできることを考えたりする活動を通して、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くことができるようになっていく。</p> <p>○ 「B衣食住の生活」については、第5学年において「青菜のおひたし・ゆでいも」や「ご飯とみそ汁」を作ったり、「カード入れ」や「ランチョンマット」を製作したりする活動や、第6学年において栄養のバランスのよい一食分の献立を考えたり、「マイバッグ」を製作したりする活動を通して、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付けるとともに、それらの課題を解決する力を養うことができるようになっていく。</p> <p>○ 「C消費生活・環境」については、第5学年において計画的な買い物の仕方を考えたり、目的に合った物の選び方や買い方を工夫したりする活動や、第6学年において環境に配慮した生活について考える活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付けるとともに、それらの課題を解決する力を養うことができるようになっていく。</p> <p>○ 「家族・家庭生活の課題と実践」については、家族のために昼食を作ったり、布を使ってプレゼントを製作したりするなど、学んできたことを生かすための具体的な活動例が取り上げられ、日常生活の中から課題を見出して課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「ソーイングはじめの一步」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、手ぬいの知識や技能を自分の生活への工夫に生かす様々な方法を考え実践したり、自分の考えを根拠や理由を明確にして分かりやすく説明・発表したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p>		
内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等	<p>○ 内容の構成・排列については、児童が達成感や実践する喜びを味わうことができるよう学習内容を23の大題材(59の小題材)で構成し、「生活を支える家庭の仕事」や「手ぬいを生活に生かそう」などの基礎的な学習をした後に、「1食分のこんだてを立てよう」や「目的に合ったふくろを作ろう」など基礎的・基本的な知識及び技能を応用的な教材で活用するなど、2年間を通して、系統的・発展的に学習することができるようになっていく。</p> <p>また、北海道にかかわりにある内容については、「暖かく快適に過ごす住まい方」に、年間の気温の変化を示す都市のひとつとして札幌市のグラフが、寒い地域の住まいとして窓や出入り口を二重にする工夫(北海道)の写真相取り上げられている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A家族・家庭生活」は32ページ、「B衣食住の生活」は82ページ、「C消費生活・環境」は8ページ、「A家族・家庭生活及びC消費生活・環境」は4ページ、「B衣食住の生活及びC消費生活・環境」は46ページ、「その他」は10ページあり、総ページ数は137ページで、前回より約20%増となっている。(判型はA B判)</p>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○ 「環境」「消費」「防災」などのマークや「参考」「一〇一かかわる人」などのコラム欄を掲載することによって興味・関心をもたせたり、チェックリストを掲載し学習活動を促したりするなど、意欲的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○ 生活の様々な場面を想起することができる写真や挿絵を掲載し、必要に応じて調べさせたり、「チャレンジコーナー」を示すことで、児童の生活の中から課題を見付けられるよう促し、家庭学習へとつなげたりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。</p> <p>○ ユニバーサルデザインフォントを使用したり、大題材ごとに「学習のめあて」を掲載したりするなど、見やすさや使いやすさに配慮するとともに、見通しをもって学習できるように工夫されている。</p>		
そ の 他			